

みどりかがやく

もうすぐ春が

1月20日（水）は二十四節気の大寒でした。今が1年のうちで一番寒い時期です。そんな寒い時期でも寒さに耐えながらも、しっかり春の準備をしている植物があります。体育館前の築山に3本あるサンゴジュも3cmほどの冬芽を付けています。サンゴジュは、6月頃に白い花を咲かせ、9月の終わりには赤い実を付けます。この赤い実に珊瑚のような光沢があることから、この名前が付いたとされています。



サンゴジュの冬芽

サンゴジュの葉は、虫に食われているものを多く見かけます。これはサンゴジュハムシによるもので、本校にある3本のサンゴジュの葉もいたるところに穴が開いており、虫の害に遭ったことがわかります。この寒い時期に葉がぼろぼろになっているのを見ると痛ましく思えます。

さて、1月22日（金）を中心日として、県内私立高校の受験がはじまりました。その後23日（土）、24日（日）の3日間で、延べ人数およそ80名の生徒が自分の進路実現に向けて、試験に挑戦しました。2月の半ばには都内私立高校の試験があり、今月末の2月26日（金）には県公立高校の学力検査、3月2日（月）には県公立高校の実技試験・面接が行われる予定です。3年生の生徒は進路を実現するために、今、不安と戦い、精一杯の努力をしながら、この時期を耐えているところかと思えます。

1・2年生の生徒は新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言が発出されている2月7日（日）までは、部活動ができない状況にあります。1・2年生の生徒も部活動ができないストレスに耐えているところかもしれません。新型コロナウイルス感染症の状況には今後も注視していきたいと思えます。

1・2年生も3年生も状況の違いはあれこそ、耐えなければいけない時期にあると思います。耐えるというと、我慢だけしていれば良いように生徒たちは考えるかもしれませんが、しかしながら、1・2年生は、いずれ部活動が再開できる時が来るであろうし、3年生もいずれこの学び舎を巣立つときが来ます。そのときに備えて、ただ我慢するのではなく、次のステップに向けての準備の時期だと考えられる生徒であってほしいと思えます。

葉が虫に食われ、痛ましい姿のサンゴジュも冬芽をもって、いずれ訪れる春を待っています。サンゴジュは水分が多く、葉や枝が燃えるときに泡を吹いて火に対抗することから「負けず嫌い」という花言葉が付けられたそうです。今は耐えるとき、待つときかもしれませんが、何もしないで待つのではなく、準備をして待つ。そんな前向きな気持ちを生徒たちがもってくれることを願っています。今年は、明日、2月2日（火）が節分。あさって、2月3日（水）は立春です。